

## ■ 都市課題

- ・交通弱者に対する最適な公共交通網を提供できていない
- ・少子/高齢化社会において安心安全な地域社会を模索したい

## ■ 解決方策

- ・多様なニーズにあった質の高い交通網の構築に向けたデータの収集・分析
- ・子供や高齢者を地域全体で見守りサービスの提供

## ■ KPI

- ・公共交通利用者数の増加
- ・交通情報提供アプリ利用者数の増加
- ・市民満足度の向上
- ・見守りサービスの使用率増加

## ■ 実証実験の概要・目的

公共交通網の最適化に向けて必要になる各種データ収集し、解決に繋がる「MaaSシティ」の実現に必要な課題や今後の展望を整理する。また、この「MaaSシティ」と相性のよい見守りサービスを低コストでサービスエリア拡大ができるかを確認する。

## ■ 実証実験の内容

- 【公共交通機関の再編に必要なデータ収集と技術検証】
- ・バス停毎における乗降客数、定刻からの遅れ時間等を可視化できるシステムを導入
- ・カメラセンサー等で取得したデータの精度を乗務員による目検によるデータと比較しシステムの有効性を検証
- ・取得データを分析し、今後の路線バスの再編に向けて必要なデータとして活用検討



- 【公共交通インフラを活用した見守りサービスの品質向上】
- ・既存見守りサービスの検知(位置情報収集)エリアの拡大を 通常の固定局による構築でなく、路線バスに移動基地局(スマートフォン)を設置し、低コストかつ広範囲をカバーできることを検証



## ■ 実証実験で得られた成果・知見

- 【公共交通機関の再編に必要なデータ収集と技術検証】
- カメラセンサー等によるデータ収集方法について
- ・カメラセンサーの精度は、約96%
- ・乗務員による目検作業の圧縮や転記ミス撲滅
- ・運行乗務員は本務の運行業務に集中可能
- ※データ精度や取得方法は問題なしと判定

乗降	検知	回数	精度
乗車	OK	566	96.75%
	NG	19	3.25%
降車	OK	575	98.29%
	NG	10	1.71%

- 取得したデータの有効性について
- ・バス停毎の到着遅延時間をデータとして収集
- ・ダイヤ改正を検討するための判断材料の増加
- ・特定の区間で団体運行になる事実をデータとして確認

- 【公共交通インフラを活用した見守りサービスの品質向上】
- 路線バスが運行している時間のエリア拡大が可能
- ・同等なエリアとして比較すると 通常設置の約1/100程度のコストで構築可能
- ・バスロケーション用のスマホと共用することで 設置コストやランニング費用を更なる圧縮が可能



## ■ 今後の予定

